

ふれあい

2016年 春季号 vol.62

2016年(平成28年)5月25日発行

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
TEL : 076-246-5600 FAX : 076-246-3914
石川県野々市市郷町262-2
http://www.nouge.net



病院理念 脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

ロボット時代を 生きる



病院長
佐藤 秀次

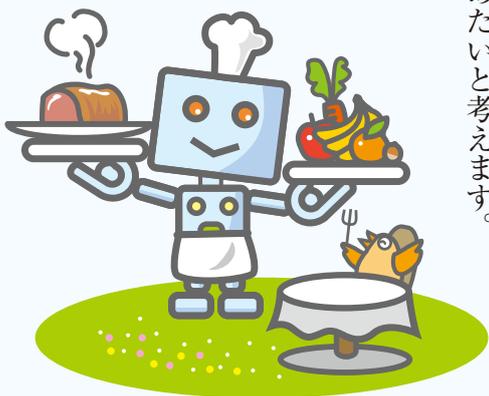
4月1日は全国至る所で入社式があり、新入職員は期待と不安で胸を大きく膨らませたことと思います。当院でも、総勢26名の新入職員を迎えました。職種は、看護職、介護職、リハビリ専門職、事務職などです。私は壇上で新人の代表者から力強い宣誓を受け、毎年のこととは言え、胸がジーンと熱くなりました。そして、未来に大きな可能性を持ったこれら新人を医療人として育てていかなければならない大きな責任に気の引き締まる思いがしました。

滑らかなになっており、「案内業務を通して来院者に笑顔になつていただき、病気でなくてもペッパリーに会いにきたくなるよう日々精進する」という決意表明まで披露しておりました。あー、もうそんな時代なんだと、終戦の3年後に生まれた私としては、ロボットの持つイメージが機械から人間へと大きく変化していることに感動しました。人工知能やロボット工学に疎い私ならではの感動ではあります。

思い起こせば、医療界では既に多くのロボットが活躍しています。余りに身近な存在になったため、ロボットであることを忘れてしまう程です。例をあげれば、医療ロボットで手術を支援するダビンチ、介護を支援する各種ロボット、ロボットスーツHALに代表される自立・リハビリ支援型ロボットや、癒やし・見守りなどのコミュニケーションーション・セキュリティ型ロボットなど、枚挙に暇が無い程です。これらのロボットの開発によって、明らかに働く者の肉体的負担の軽減や人手不足の解消、さらには医療サービスの向上などが図られており、まさに頼りがいのあるパートナー、助っ人と言えます。これらのロボットの改良が益々進んでいくことで、必然的に私たち人間に求められる役割は変わっていくはずですが、いや、変わらねばならないはずですが、オックスフォード大学から衝撃的

な論文が発表されました。あと10年で「消える職業」と「なくなる仕事」202業種についてです。人工知能とロボットテクノロジこそがまさにその主役です。人を助ける役割のロボットが人に取って代わる時代がもうそこに迫っているのです。

ロボットは人を駆逐していくのか。人は職業を失っていくのだろうか。素朴な疑問が湧いてきます。だからといって、テクノロジの進化を止めることはできません。人口減少、少子高齢化の我が国の未来を思えば、人に近づき人を超えるロボット開発は救国の技術といっても過言でないでしょう。それならばロボットと共生する我々人間がそれぞれの職種や仕事において、ロボットが真似られない付加価値を作りあげていくことが重要になるのではないのでしょうか。新入職員を待ち受ける未来が、ロボット天下にならぬよう、今のうちから知識や技術に偏重しない愛と情に溢れた人作りを進めたいと考えます。



入職式



平成28年度

入職式と 新人研修

今年には脳神経外科医師1名、
看護師9名、臨床検査技師1名、
理学療法士6名、作業療法士3名、
言語聴覚士3名、地域医療連携課
職員1名、医療秘書2名を新たに
迎えることとなりました。

新人研修



▲講義



▲消火訓練



▲レントゲン室見学



▲手洗い実習

新任医師紹介

脳神経外科 医長

塚田 剛史 (ツカダ ツヨシ)

診療科

脳神経外科

前の勤務先

市立砺波総合病院(富山県)

専門分野

脳虚血の外科・てんかんの

一般診療



座右の銘

歩歩是道場(ほほこれどうじょう)

患者さんに一言

これまでの経験を生かして、丁寧な診療を心がけています。

TOPIC

第12回 QCサークル活動発表大会

QCサークル
推進委員会

3月5日に第12回院内QCサークル活動発表会が開催されました。

今年には全部で8演題の発表がありました。金賞はリハビリテーション部の「休日リハの申し送り表を見直そう!!」、銀賞は4病棟・SCUの「4病棟とSCUの医療材料シール物品を見直そう」、銅賞は3病棟の「ストック管理の物品棚を整理整頓しよう!」が選ばれました。



患者さんコーナー



白山市 山下すえの 様

MD法の手術を受けて

私は脊柱管狭窄症でMD法の脊椎手術を受け、今は散歩していてもしびれなく長い距離を歩ける生活を楽しんでいます。

歩くとしびれますが、ソフトバレーボールをしている時はしびれや痛み等を感じないため、バレーを続けたいとの思いがあり、手術を受ける決断をするまでには迷いがありました。しかし、歩く距離が短くても、しびれが一段とひどくなってきた、お尻の感覚もなくなってきました。これから先の事を考えると、歩く、立つこともできず、家族に迷惑をかけるだけだと思い、手術を受けることにしました。幾つもの検査の結果、MD法で手術ができるようになり、若い時に腰の手術をした知人に話すと、知人は「私は1週間寝たきりで辛かった」と言っていたので心配でした。(MD法の脊椎手術ではなかったようです。)

手術は約3時間かかるとの

ことで心配でしたが、当日の手術は全身麻酔で一瞬のうちに眠れたようです。「山下さん、分かりますか」と先生の声で目が覚め、「手術は終わりましたよ」とのこと。何の痛みも感じず手術が終わり、二晩だけ回復室にいて、翌日はトイレへ二人で行けて本当に喜びました。一晩でしびれ、痛みから解放されたのです。

あとは、リハビリです。マッサージなどでいろいろお世話になりましたが、それ以上に元氣付けられたのが会話でした。「このあと私はスポーツができるようになるのかな?」と尋ねると、「出来るようになるよ。リハビリがんばろう」との返事。リハビリでしびれもなく、病院一周を歩けた時は大変嬉しかったです。術後の痛みもなく、回復も早く、MD法の手術をしていただき、本当に良かったです。

手術前の説明や検査をして下さった先生、MD法で手術をして下さった先生、会話をしながらリハビリをして下さった先生、家族に感謝しています。そして、いつかソフトバレーボールが出来る日を楽しみに散歩を楽しんでいる今日です。

患者さんコーナー

野々市市 平井兼次 様

腰部脊柱管狭窄症及び椎間板ヘルニアによる苦痛から解放されて

私は、9年程前、ある整形外科において、腰部脊柱管狭窄症との診断を受けました。服薬や注射、リハビリ等の治療を受けてきましたが、徐々に悪化し、2015年春頃には歩行もやや困難な状況になりました。かかりつけ医の整形外科で、手術についても相談しましたが、その先生は否定的で他の医療機関への紹介もしてもらえませんでした。そんな時、知人から金沢脳神経外科病院のことを聞き、早速受診し、2015年11月27日に手術を受けることができました。

説明を受け、手術当日午後MD法による手術を受けました。狭窄症は3ヶ所でしたが、手術は3時間半程で無事終了しました。翌日から病室内での歩行も可能となり、3日目から病棟内での歩行も可能となりました。最初は手すりに手を触れながら院内の廊下をゆっくり歩いていましたが、日に日に楽になり、術後10日程過ぎると普通に近い程度の歩行ができるようになりました。術前のつらさ、痛さが嘘のように楽になりました。

現在、手術後70日経過しましたが、お陰様で日常生活も発症前同様に送ることができるようになりました（太ももから足先にかけてのしびれは若干残っておりますが……）。

私は、30年程前に腎臓結石の除去手術を受け、術後の痛みに苦しんだ経験がありますが、今回はほとんどその苦しみもなく、数週間で社会復帰することができました。これもお世話になった先生をはじめ病院の皆様のお陰と思い、毎日感謝しながら余生を過ごさせてくださいたいと思います。本当にありがとうございます。

患者さんコーナー

兵庫県姫路市 田中陽子 様

拝啓

ようやく春らしくなってきました。院長先生はじめスタッフの方々お変わりなくお過ごしのことと存じます。入院中は先生方や皆様にお世話になりました。ありがとうございます。手術から3ヶ月になりますが、長年苦しんできた足腰の痛みから解放され、ウォーキングや買い物、食事の仕度など苦にならなくなり、感謝感謝の気持ちです。しております。体から痛みがなくなるといふことは、こんなにも幸せな気分にはさせてくれるんだと実感し、その喜びは何にもかえがたいものがあります。

手術前は不安で不安で一杯でしたが、「投薬」と「ブロック注射」の治療に限界を感じ絶望的な日々を送っていた時、親類の方から佐藤先生のご存在を知り、MD法という脊椎手術にかけてみようかと決心しました。

すぐに予約を入れ十二月中旬に手術。麻酔からさめ、まだ

ボーっとしていましたが、院長先生に声をかけられ、今までの足感覚とぜんぜん違う事に驚き、とても軽くなった感じで、先生の笑顔を見て成功したんだと直感しました。コルセット無しでは立っていることも歩くこともまだまだ無理ですが（長年の痛みと体を動かす事が出来なかつた為、筋肉が落ちてしまった結果）再発防止の為にも無理をせず、体力や体調に合わせ出来ることから始め、筋力をつけていけたらと思っております。院長先生はじめ手術時のスタッフの方々に、そして看護にあられた方々に心から感謝申し上げます。そして後継者育成にも力を注ぎ、今後ますます病院が発展されることを祈りつつお礼の挨拶にかえさせていただきます。

敬具

